宮崎県歴史の道調査報告書

志布志街道

1978

宮崎県教育委員会

志布志街道

（高松一福島一榎原一塚田一飫肥）

目　　次

1. 志布志街道の特色 ……1
2. 志布志街道の歴史 …… 1
3. 志布志街道 …… 1
4. 街道沿いの文化財 …… 3
5. 写真及び古地図 …… 4－(1)

序

宮崎県はかっては交通不便の地とされていましたが、近年急速な近代化の波を受け、古来から人や文物の交流の舞台となった道も年々姿を変えています。

その道のもつ歴史的背景、道の果たした役割、道の現状等を明らかにする「歴史の道」調査を、全国にさきがけ、昭和５２年度に県北五街道を実施しました。昨年に引き続き、昭和５３年度は県南四街道の調査を実施し、一昔前の街道や街道沿いの交通遺跡の残存状況の実態を明らかにいたしました。

本報告書は、街道地図・街道の特色・街道の歴史・街道の様子・街道沿いの文化財や遺跡の解説からなっています。

短期間になされた調査ですので不備な点もあろうかと思いますが、本県交通史の研究資料として、又、歴史の道保存のための基礎資料として御活用いただければと思っております。

最後に、資料による事前調査、実地調査、報告書作成と、それぞれお忙しいなかお骨折りいただいた調査員の方々に厚くお礼申し上げます。

昭和５４年３月

宮崎県教育委員会

教育長　四　本　　茂

例　　言

1. 街　道　名

江戸時代にあっては，道路の規模により街道と往還を使い分けていたようであるが，現在往還は用いないのですべて街道とした。

また，志布志街道をのぞく他の街道は，厳密にいえば2ないし3往還に細区分される。

しかし，すべてをあげる必要もないので，距離も長く中心となるものを代表させた。

2. 街道の概要説明

街道の詳細な記述は，街道沿いの交通関係遺跡の解説に譲り，ここでは街道の持つ歴史的背景，街道の果たした役割，街道の現状等を概括的に記した。

3. 街道沿いの交通関係遺跡解説

(1) 個々の解説の前半に，遺跡及び遺跡周辺の状況，遺跡と遺跡間の状況を過去から現在にわたって述べ，後半に遺跡そのものの解説を付した。

従って個々の解説をとおして読めば，起点から終点迄街道の全容が把握できる。

(2) 街道沿いの主な集落には，戸数，集落間の距離又は起点からの距離を記したが日向地誌によった。地誌は明治8年の調査をもとにしている。

(3) 集落間の距離，起点からの距離で，何里何町と記してあるのは日向地誌によるもので，他は地図から割出した距離であるので正確は期しがたい。一応の目安としていただきたい。

(4) 交通関係遺跡の配列はほぼ道順に沿っているが，間道あり脇道ありで複雑をきわめるので，街道図を参照していただきたい。

1　志布志街道の特色

鹿児島県志布志から、宮崎県の福島、現在の串間市を経て南郷町の榎原神社に至り、ここからほぼ一直線北に進路をとり、途中塚田・山口を通って飫肥に至る道を志布志街道と言っているが、更に飫肥街道を含めて言う場合もある。

今回の調査では、県境高松の船番所跡を起点として、今町・榎原を経て飫肥城大手門を終点とする６里２２町（約２６Km）を調査の対象とした。

飫肥街道が藩政期、伊東氏の領する飫肥城と清武城を直線的に結んだ街道であるのと同様、志布志街道は島津氏が櫛間城と飫肥城を領していた時代（藩政期以前）に、両城をほぼ直線的に結んだ街道である。

飫肥街道が直線コースをとる故に、鰐塚山地を横断するかなりけわしい山道を行くのに反し、志布志街道は直線コースをとっていても、奈留峠・寄仏峠など高い所でも標高140m余りで、比較的楽な道である。

又、飫肥街道が飫肥と清武間に、難所でもあり気をつかう山仮屋の関所しかなかったのと異なり、志布志街道は櫛間と飫肥の中間に、西海では鵜戸神宮と共に名を知られた榎原神社があり、門前町で一息ついた。

この街道は櫛間・飫肥の両城下を往来する道であると共に、榎原さん詣での道でもあり、又、隣国大隅と日向の国を結ぶ文物交流の道でもあった。

2　志布志街道の歴史

福島は福島川河口に栄えた町で、近くに下弓田の縄文遺跡、又町中に霧島塚・剣城塚等の古墳があり古くから開けた所である。

戦国時代は、飫肥とともにこの地を島津氏が領したが、伊東氏に飫肥城を攻略されてからは、先の領主肝属氏が旧地を復した。

しかし、伊東氏の殁落後再び島津氏に帰し、秀吉の九州統一以後は高鍋藩領となった。

戦国時代は、伊東氏が飫肥城を襲うたびに櫛間城から飫肥城をさして援軍が馳せ参じた道であり、江戸時代は高鍋藩の秋月氏が、飛地櫛間と高鍋との間を往来した道である。

高鍋藩では藩主が代ると櫛間地方の巡検を行っているが、藩主の宿泊する本陣が飫肥本町にあった。

高鍋を立った一行は豊後街道を清武まで南下してここで一泊、翌日は山坂道の飫肥街道を南下して飫肥で一泊、翌々日は志布志街道を南下して夕刻には福島の郡代所へ入ったものであろう。

幕末の動乱期には、長州征伐に赴いた志布志の兵約百人が帰路飫肥本町の旅館に泊り、志布志街道を下っているし、明治元年の正月は王政復古の布告文をたずさえた島津氏の使者が飫肥城に入っており、翌２月には飫肥藩主の返答を持参した平部嶠南が鹿児島に出立しており、この街道もあわただしさを増している。

平部嶠南の日誌によると、帰路は鹿児島を立って加治木・末吉・櫛間（上ノ町）でそれぞれ宿し、三泊四日の行程で飫肥に帰っている。

志布志街道は現在、串間市・南郷町・日南市の２市１町にまたがっている。

南郷町の外之浦港は足利時代、博多・坊之津と共に対明貿易で賑わった。多くの名僧・学僧が渡来しており、このためか街道沿いには虎渓庵を初めとし室町時代建立の寺院が多い。

3　志布志街道

(1) 県境高松から福島今町へ

県境の高松より福島今町まではおよそ5Kmである。街道は高松で3ケ所現在の国道220号線と交差し、長浜に入ると国道南側砂浜の松林沿いの道となる。長浜から今町までは海岸に平行して通る国道と重なる。

高松は漁港であるが、島津藩と隣接していたため船番所①及び番所③がおかれた。

今町港は、福島川と善田川に挟まれた入江で天然の良港である。船番所は港入口の両側に、遠見番所⑪は金谷に置かれた。昔より国内の交易はもちろん、遠く中国との交易も行われ唐人町の名を今に残す。今町は明治初期に戸数254戸を数える港町で、造船所もありこの地方最大の町であった。

(2) 今町から榎原へ

串間(櫛間)中町より北方、奈留を経て榎原までの道は、福島川に沿うゆるやかな上り勾配の道である。

串間は古くからこの地方の中心地で、中世には野辺氏・肝属氏・島津氏がそれぞれ櫛間城㉕に拠ってこの地を治め、藩政期には秋月氏が中町に郡代所⑮をおいてこの地を治めた。

郡代所は現在の串間市役所の地にあったが、山東・山西両代官、目付所、正名舎(学校)等の建物を有した。又、郡代所は高鍋から藩主が到来した際の宿舎にもなったので「御仮屋」とも称された。

今町から中町を経て上町へ至るまでの旧道には、正国寺⑬・熊野権現⑭・西神社⑰・如意寺⑱・昌福寺㉔・西林院㉖等多くの神社仏閣が所在する。

串間神社のある上町から徳山までは、国鉄日南線との国道の間を旧道は通る。一部工場敷地などで切断されているが、幅約5m深さ2m、溝状の状態で残り雑草が茂っている。徳山で国道と交差し西へ曲って大束新町に入るが、この間街道は田畑や宅地と化し途切れがちである。

大束新町から奈留間は福島川の支流奈留川沿いの国道とほとんどといっていいほど重なる。この間、名所旧跡は少なく、古大内に野辺氏累世の墓㉜と虎溪庵㉝があるくらいである。野辺氏は、建武元年(1334)櫛間地頭職に補せられ7代続いたが、足利義昭をかくまった罪により亡ぼされた。

奈留は、飫肥との藩境が近いため番所㉞が置かれた。地元の人は今でも番所跡のことを「ばんどこ」と言っている。

奈留峠は標高約120mでそんなに険しい峠ではない。峠には、藩境を示す石塔が大正の頃まではあったようであり、又、殿様が駕籠を止め一休みしたと言われるお駕籠立場があった。今はみかん畑になっており当時をしのぶものはない。

峠を下ると石ノ元である。石ノ元はもう飫肥領でここには飫肥藩の番所があった。番所跡から約500mで榎原神社である。

榎原神社は「榎原さん詣り」と称し、櫛間からも飫肥からも参詣者が多かった。

(3) 榎原から飫肥へ

榎原から飫肥楠原までは、山あり谷ありの起伏の多い街道である。

榎原神社を過ぎると、街道は山を下って酢苔川に出る。昔は板橋㊴が架っていたようだが今は200mほど上流に鉄筋コンクリートの橋が架かる。橋を渡ると登り坂の山路になり約500m登ると地蔵菩薩の石仏㊵を見ることができる。ここは小高い場所で串間の山々が遠望される。まわりはほとんどみかん山で街道もみかん栽培用の道路といったところである。

峠を下ると仏坂である。仏坂は南平を経て串間の大平に至る櫛間往還（現在、県道大堂津志布志線）と交わる交通の要所のため、昔から武士集団が住みついた。今なお集落、石垣や家の造りなどに昔の面影をしのぶことができる。

仏坂からは再び尾根づたいの上り坂となる。大正時代までは街道脇に松の大木が並木として残っていたが今はない。このあたりも、みかん栽培が盛んで旧道は道幅を拡張し農道として使用されている。

峠を下ると細田川に出る。細田川には窪田土橋が架かっていたようだが今はなく、約200m上流に現在の塚田橋(41)が架かる。窪田土橋の北詰には、大正時代まで榎原神社参拝者を相手とした茶屋があったということである。

下塚田には塚田神社(42)があり、境内には樹令2～300年と思われる杉の大木が何本もあって歴史の古さを感じさせる。

下塚田橋を過ぎるとすぐ上り坂になる。ここも旧道は拡幅のうえ簡易舗装され、みかん栽培用の農道利用されている。寄仏峠の付近になると道の利用者はなく街道は荒れるにまかせ、背丈以上の雑草や竹などがおい茂っている。

峠を下ると覆盆子鶴（いちごづる）に出る。周囲は杉の大木がうっそうと茂り昼も薄暗い。街道の西側には茅葺の廃屋が散在し、庭にはみかん、柿等を採る人もなく実っている。

坂を少し登るとあとは山口、楠原まで尾根伝いのなだらかな下り坂である。集落に近いせいか、街道沿いに石仏(44)や庚申塔が目つくようになる。

楠原を通り、酒谷川に架かる本町橋を渡ると飫肥の町で、飫肥城大手門は近い。

楠原の五百　神社西側墓地には、伊東氏累代の墓(49)、平部嶠南・小村寿太郎(50)・飫肥西郷と言われた小倉処平などの墓がある。

4　街道沿いの文化財

串間市

① 高松の津口番跡 ㊊

志布志街道わき、高松港に面して船番所跡がある。往時はここに建物が2棟あり、1棟は高鍋から監視に来ていた武士が常駐した。津口番と呼ばれ船の出入りを監視した。

② めぐり瀬の船着場 ㊊

高松港に浮かぶヨゴセ島めぐり瀬の大岩に3ケ所大きな穴が　たれており、旧藩時代に船のとも綱をつないだ所だと言われている。

志布志の廻船問屋の船がよく出入したが、500石積み程の大型船だけもやいだという。

③ 高松の番所跡

高松の津口番から東に300m程の所に番所があった。島津藩に対して置かれたもので、出入を厳重に警戒した。

高松は明治の初め戸数52戸の集落であった。

④ 長浜の弁財天

高松の番所から東に約1200m砂浜松林の道を行くと、弁財天と呼ばれ市杵島姫を祀るお宮がある。創建は不明であるが、境内に明和7年（1770）刻銘の石燈籠がある。

⑤ 七ツ橋

財天から約2Km東に行くと善田川に架かる七ツ橋に達した。日向地名録に、「志布志街道に属す。善田川の下流に架かる板橋なり、西岸長一町十七間。中流に7つの橋台あり、長三間の橋を七所に架けて、相聯接す。故に是名あり。」と記されている橋である。

現在、弁財天から七ツ橋の大半は国道と重

なる。橋も永久橋に変ったが、旧七ツ橋の位置より少々東側に寄っている。

⑥　常照寺

七ツ橋から南東約400mの所にある。

浄土宗鎮西派知恩院末の寺で、山号を心光山と称している。本尊は阿弥陀如来、永録11年（1568）蓮社到誉可説和尚の創建によるものである。明治4年(1871)廃寺となったが、同31年に再興された。

⑦　泊柱神社　㊅

七ツ橋から南東約1Kmの富顔山山嶺にある。建保2年（1214）の創建で、祭神は猿田彦命と速秋津姫である。

祭神は利生殊勝の神で、海路往来、船舶の守護神として崇められている。例祭は11月15日である。

⑧　今町の津口番跡

泊柱神社の近くに今町の津口番があった。今町は千石船が出入する港町として殷盛をきわめたところである。

津口番のことは、福島郷土史に「船舶の出入する浦津の入口に住し常に船舶を監視して、他藩船であれば直ちに運上並びに輸入税を徴収する。但運上は船の大小に比例し、船の大小は帆の反数を標準とした。」とあり、高鍋から出役した小頭格の者がここに勤めた。

番所跡には現在民家が立っている。

⑨　金谷の渡し　㊅

今町の津口番の前から金谷神社の下まで渡し船が往来していた。その起源ははっきりしないが、相当古くからあったと想像されている。就航距離は約80mであろうか。現在も就航しているが、市営で今町側は100m程上流の所から金谷神社の北側とその位置がかわっている。

⑩　金谷の津口番跡

金谷には、津口番と遠見番所がある。

金谷の津口番跡は他より小高くなっており、今町の津口番と相対した。今は民家が立つ。

⑪　金谷の遠見番所

金谷の津口番所から南に約30mの小高い丘の上に遠見番所跡がある。

現在雑木林の中に、高さ約60～70cm、1辺約6mの正方形に積まれた石垣だけが残る。

⑫　金谷城跡

金谷の渡しから南東約4.5Km行った小高い山の上にある。

この城は、野辺氏・島津氏・秋月氏の各氏がそれぞれ別城をして利用している。港を控えた要害の地だったからであろう。

⑬　正国寺

七ツ橋から約2Km東に進むと立山と呼ばれる丘があり、そこに正国寺が立つ。

正国寺は浄土宗、本願寺派の寺で本尊は阿弥陀如来である。慶長12年（1607）宗徳によって開基され、その後寛永17年7月（1640）はじめて本山より高立山正国寺と命名された。

⑭　熊野権現

正国寺から約250m東に行くと熊野権現がある。松清の岡にある祠堂で事別男命・伊耶冊命・速玉男命を合祀している。高鍋藩寺社帳によると、天和3年11月（1683）種信公によって再興されたことがわかる。

⑮　福島郡代所跡　㊅

正国寺・熊野権現そして福島郡代所跡も、町中を通る旧道沿いにある。郡代所跡には現在串間市役所が建つ。

当時は面積約7アールの高台に郡代所・郡代所を補佐する正名舎等の建物が建った。

又、高鍋藩主がこの地に見えた際の宿泊所ともなったので、「御仮屋」とも称したよう

である。

⑯　道路元標

この道路元標は大正時代のもので、福島郡代所の入口にあったが、現在市庁舎前に移されている。

１辺約３０cm、高さ約１６０cmの石柱で次の陰刻がある。

正面　距宮崎元標弐拾壱里弐拾壱町拾九間弐尺　福島駅

左　県界へ弐里参町拾五間四尺

右　榎原へ参里拾四町弐拾四間弐尺

裏　大正元年拾弐月建設

⑰　西神社

福島郡代所前から約２００m行くと街道右手に西神社がある。

旧称は住吉大明神で、上筒男命・中筒男命・底筒男命を祀っている。海上守護神で明治５年今の名に改められた。例祭は１１月１８日である。

⑱　如意寺

西神社の少し東に如意寺がある。曹洞宗、帝釈寺末まで本尊は釈迦如来である。

寛政元年（１７８９）知英和尚が創建したもので宗内伝法の寺格に列している。明治４年廃毀となったが同３０年再興された。山門わきに市指定の大イチョウがそびえる。

⑲　万多城の塚

福島郡代所前から北約１Kmの間、街道右手に万多城・剣城・毘沙門天の３塚、左手に霧島塚が所在する。

万多城の塚は高さ約４.５m、径約３０mの円墳で、墳上は現在墓地になっている。

⑳　剣城の塚

剣城の塚は万多城の塚から北に約１００mの地点にある前方後円墳で陪塚を有している。

福島郷土史に、「高さ１丈５尺周囲１町５間其形隆然円にして長い中央稍低うしてせまる側面より見れば瓢形に似ておる。」とある。

現在、戊辰の役の戦死者石碑と社殿が建つ。

㉑　毘沙門塚　㊞

剣城の塚から東北東へ約３５０mの所にある高さ約３.４m、径約２５.４mの円墳である。

古くから墳上に毘沙門天を祀るので塚名となった。

㉒　勿体森

霧島塚の北西約５５０mの福島中学校の校庭内内にある。

当時このあたりは、四方を山に囲まれ鳥獣が多く、彦火火出見尊の御狩場といわれた所である。

㉓　霧島塚　㊞

霧島塚は街道左手にある高さ約１m、径約４０mの円墳である。街道からすぐ上れるように階段ができており、墳上には霧島権現を祀る小祠がある。

㉔　昌福寺

街道は霧島塚から北東約１Km行った所で、西側に右折し国鉄日南線を横断して福島川右岸に出る。

昌福寺は福島川に面した小高い丘の上にある。浄土宗・鎮西派・知恩院末の寺で本尊は阿弥陀如来である。文和３年（１３５４）の建立であり、開山は宥阿弥上人である。

㉕　櫛間城跡　㊞

国鉄日南線との交差点あたりから街道は福島川岸、国道２２０号線と国鉄日南線の間に挟まれた形で、北東へ約１.５m串間神社まで進む。

櫛間城跡は街道左手、両側の切りたった崖上にある。南北朝の初め野辺盛忠が創築した城で、後に秋月氏の居城となったが、秋月種長が高鍋に移ってからは廃城となっ

た。

㉖ 西林院

櫛間城跡の西北約400mの所に西林院がある。禅宗西京妙心寺の末寺で慶長元年(1596)秋月種長の建立である。本尊は阿弥陀如来で境内の墓地には秋月種実らの墓がある。

㉗ 秋月氏の墓 (写)

西林院の境内墓地にあり、石垣の中に藩主秋月種実・子息石見守・種実の奥方青松院の墓が三基この順に並び立つ。秋月種長が高鍋に居を移すまで18年間秋月氏の墓所であった。

㉘ 上町橋

昌福寺と櫛間神社のほぼ中間が上町である。ここは赤池からの福島川と奈留からの福島川の合流点で、前者に木造の上町橋が架かった。現在は同じ場所に鉄筋コンクリート橋が架かる。

㉙ 櫛間神社 (写)

上町橋を約500m北上すると、櫛間神社がある。街道は国道220号線の西側を平行して走るが、一部櫛間神社参道と重なる。

櫛間神社は旧称を十三所大明神といい、彦火火出見尊を祀る。明治5年(1872)に近郷の豊玉姫・猿田彦命等八座を合祀し、櫛間神社と改名した。

境内の楠・杉及び神楽面十面が市指定の文化財になっている。

㉚ 足利義昭の墓 (写)

上町橋の北約400mに人家に囲まれた田圃の中に足利3代将軍義満の第6子義昭の墓がある。義昭は将軍職を異母兄の義教に奪われた上日向の地で自刃させられた悲劇の人である。

日向地名録によると、「足利義昭墓、在日州福島北方村笑止田。義昭戦死處。村名笑止田。夕陽寒鵜亂。無人弔墓 。・・・・・」とある。

㉛ 倉三橋(くらみつ) (写)

櫛間神社前から奈留番所跡までの約7Kmは、奈留川・国鉄日南線・国道220号線、そして志布志街道の4者がぴったり寄り添い北東方向へ回り込む。

倉三橋は櫛間神社前から北へ約3Kmの所、福島川の上流大平川に架かっていた。現在コンクリート橋だが、以前は木橋であった。

㉜ 野辺氏の墓 (写)

倉三橋を渡って北東に約2.3Kmで古大内に入る。古大内の中程、街道のすぐ右手に小高い塚があり頂上には野辺氏の墓や石祠がある。

日向地誌に、「五輪碣六基を建つ、又基側に稍新しき石祠あり、前面に野辺八幡宮の五字、背に虎溪院殿盛房の六字を鐫す・・・中略・・・土人言・五輪 は野辺氏の墓なりと、蓋し元と古陵ありしに中古其古陵たるを知らず塚上に就て葬しか、或は徒に石碣を建て墳とせし歟」とある。

野辺氏は武蔵国榛沢郡野辺郷の出で日向国櫛間院の地頭として南北朝時代にこの地を領した。

㉝ 虎溪庵 (写)

野辺氏の墓地から北西約200m入った所にあり、串間の地頭野辺盛房が応安3年(1370)に建立したものである。臨済宗・相国寺派の寺で本尊は11面観世音菩薩である。

㉞ 奈留の番所跡

野辺氏の墓から北東へ約1.6Kmに奈留の番所跡がある。秋月藩12番所(福島院)の1つで番士が多くいた。

現在は駐車場となっており、昔の面影は何も残さない。土地の人は「番どこ」と呼んでいる。

南郷町 ＜南那珂郡＞

㉟ お大師様 (写)

奈留の番所跡からは、国鉄日南線、国道と袂を分かち北側奈留峠を越す山道となる。

峠を下ると道のすぐ横にお大師様が鎮座している。この石仏は高さ約1.2ｍの釣鐘型の石に　部を設け、お大師様を彫り出している。

両脇には天下泰平・国家安全・諸難口除・文政　寅八月大発起地福寺・五穀成就・村中安全などの文字が読める。

㊱ 石ノ元の番所跡 (写)

お大師様の石仏から約1Kmで飫肥藩の石ノ元の番所跡である。奈留峠が高鍋藩領櫛間と飫肥藩との境で、峠を挟んで両藩の番所がおかれたが飫肥側の番所がこの石ノ元番所である。

石ノ元の番所跡は現在は畑となっている。

㊲ 石ノ元のいのこ (写)

石ノ元の番所から東へ約100ｍの街道右手に湧き水が出る。湧水横の岩壁に地蔵が彫られ、横に変体仮名で「さんつ川に化物がでるので此の水をもらいます」と刻まれていたようだが、道路拡張にともない地蔵だけが現地に残された。湧水は今も流れる。

㊳ 石ノ元の山の神

石ノ元の番所跡から約170ｍ北東に進むと山の神の鳥居があり、更に100ｍ山中に入ると山の神の祠堂がある。

ここから鵜戸神宮とともに名高い榎原神社は間近い。

㊴ 酢苔川板橋

榎原神社から北に向って約1.5Km行くと、酢苔川に出る。ここには、日向地誌に「志布志街道に属す。本村の北隅、酢苔川に架す長十間三尺、幅一間三尺五寸、欄干あり」と記された酢苔川板橋が架かっていた。今は約200ｍ上流に鉄筋コンクリートの橋が架かっている。

榎原神社から東への道をとれば上方平野（油津）を経て飫肥に至る道。北東への道をとれば塚田を経て飫肥に至る志布志街道である。

㊵ 地蔵菩薩 (写)

酢苔川橋から約500ｍ山路を登ると、村人が地蔵様と呼ぶ石仏が街道筋にある。高さ1.3ｍほどの舟形光背を持つ地蔵菩薩像である。

像の右側に「左以王ノ元道」、右側に「前津留惣中」と彫られており、道標の役も果たしている。

日南市

㊶ 下塚田橋 (写)

仏坂の地蔵菩薩より旧道はほゞ北に向い約4Kmで下塚田橋に至る。この間旧道は山道で小さな峠を2ケ所越えなくてはならない。

下塚田橋は旧称窪田橋と呼ばれていたようで細田川に架っていた。下塚田の北詰には、榎原神社詣りの旅人や村人相手の茶屋が大正時代まであった。

現在は茶屋はなく橋も200ｍほど上流にコンクリートの橋が架かっている。

㊷ 塚田神社 (写)

下塚田橋の南約300ｍ急勾配の石段を登ると塚田神社がある。旧称は早馬大明神といい、天御中主ノ尊・磐土命・大直日命・底土命・大綾津日神・赤土命・中筒男命の七神を祀った。

境内には、樹齢200～300年もの杉の大木がうっそうと繁り歴史の古さを感じさせる。

㊸ 山王様

下塚田橋の北西約300ｍの所に山王様と呼ばれる祠堂があり、高さ約30cmの人か猿に似た自然石を祀っている。祠の中には又、日

吉山王宮祭神猿田彦命と記された板が収められている。

㊹ 石仏

下塚田橋から道は上りになり約2Kmで寄仏峠に至る。峠付近の旧道は荒れるにまかされ、雑草や竹が背丈以上に繁り歩行も困難である。約1.5Km峠を下ると覆盆子鶴（いちごづる）に出る。ここは明治の初め9戸あったが今は1戸を残すのみで、廃屋が旧道の両側に散在している。

覆盆子鶴から少し坂を上るとあとは山口・楠原まで下り道で、山口の集落の手前1Kmほどの所、旧道のすぐ脇に地区民が「いしぼとけ」と呼ぶ石仏がある。飫肥から榎原に向う旅人はこの石仏に道中の無事を祈ったであろう。

㊺ 山口の観音堂

石仏から少し行くと旧道東側の道脇に観音堂がある。堂の中には像高約60cm、木造の観音菩薩像が1軀祀られている。

木箱の墨書により宝暦9年（1759）の製作であることが知れる。

㊻ 山口の供養塚 (写)

観音堂から北へ30m、旧道から東へ50m程入った所に、高さ約1.5m直径約3mの塚がある。墓石状のこわれた石が多数埋っており、土地の人は伊東軍と島津軍の戦いで戦死した島津の武将の魂を祀った供養塚と言っている。

㊼ 上城跡

山口の供養塚から北東約1.2Km、三方を酒谷川に囲繞された楠原の高台に上城跡がある。

文明16年（1483）伊東祐国が飫肥城を攻めた時ここを本営にした。以後、伊東氏は飫肥城を攻めるたびにここに兵を置いた。現在は日南市の霊園となっている。

㊽ 五百穂神社

上城跡の北東、旧報恩寺跡に五百　神社がある。社名は、伊東氏の祖工藤祐経6世の孫、伊東祐持が日向に下向してより社の創建まで535年を経たことにちなんで名づけられた。

㊾ 伊東氏累世の墓 (写)

五百穂神社の裏側にある。墓域は石垣でめぐらし、巨大な墓は宝塔形式をとっており藩主の墓所にふさわしい。

㊿ 小村寿太郎の墓

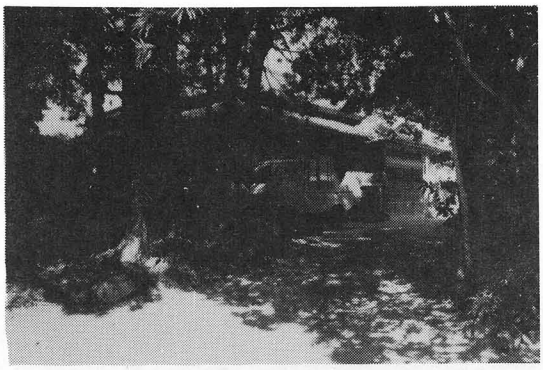
伊東氏累世の墓所の西側に小村寿太郎の墓がある。

小村寿太郎は、外務大臣として日露戦争の終結にあたった。

(51) 本町橋

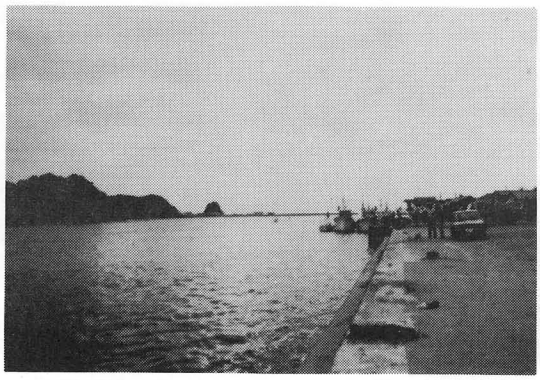
五百穂神社から東に100m程行くと酒谷川に出る。慶応年間（1865～1868）に橋が架かるまでは徒歩で渡った。

橋を渡り本町通りを暫く行き右折すると大手門通りで、終点大手門まで後わずかである。

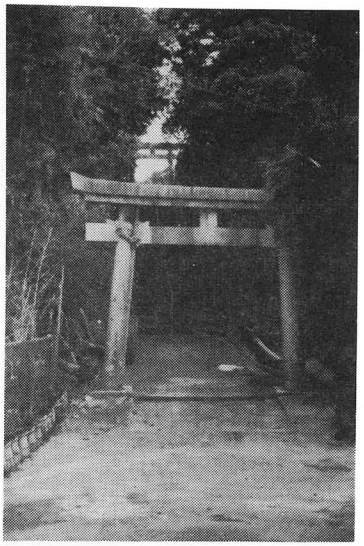


①高松の津口番跡
船の出入を監視した津口番跡。現在は民家が建っている。

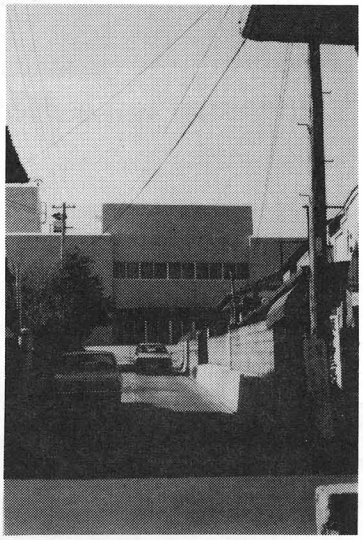
②めぐり瀬の船着場
大型船をもやいだ船つなぎ岩。島に3ヶ所ある。



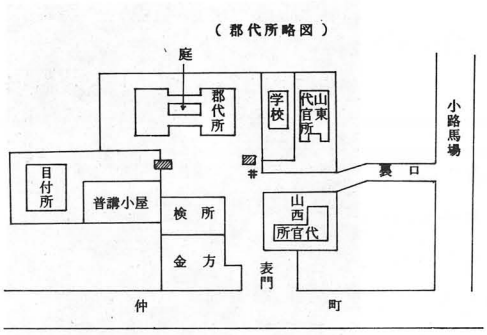
⑨金谷の渡し
現在も市営の渡し船が就航している。



⑦泊柱神社
富顔山山嶺にあり、船舶の守護神である。

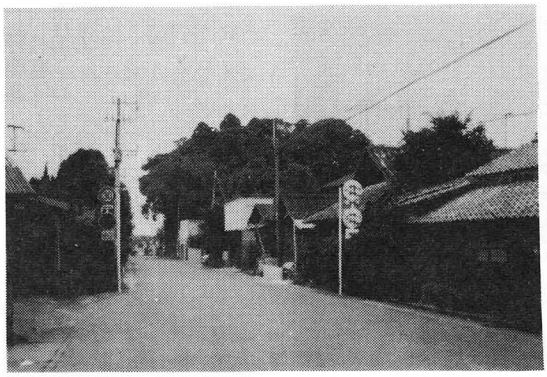


⑮福島郡代所跡
現在の串間市役所は郡代所跡に建っている。

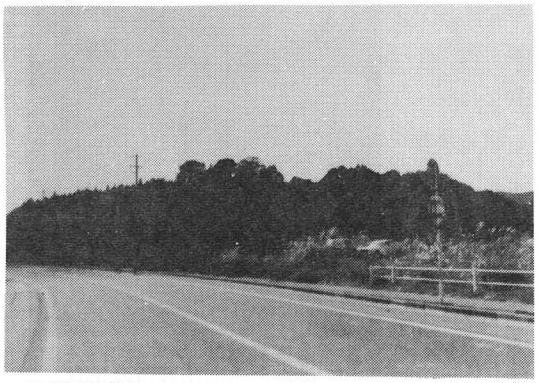


○郡代所略図

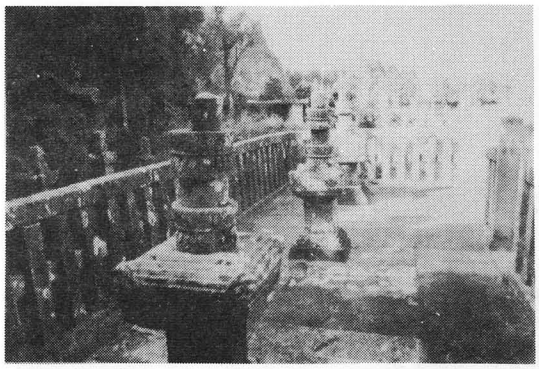
㉑毘沙門塚
　墳上に毘沙門天を祀る。当時は周囲１００ｍ以上あったという。



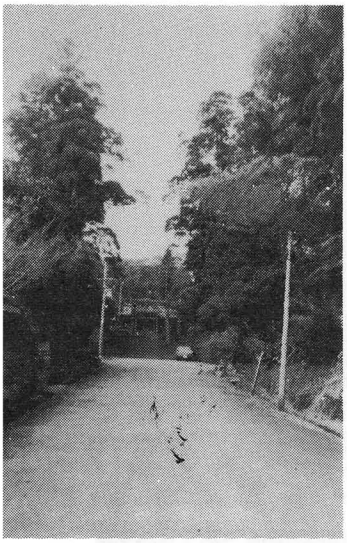
㉓霧島塚
　墳上に霧島権現を祀る。



㉕櫛間城址
　街道は城址の下を大きく曲り上町を通って福島川に出る。

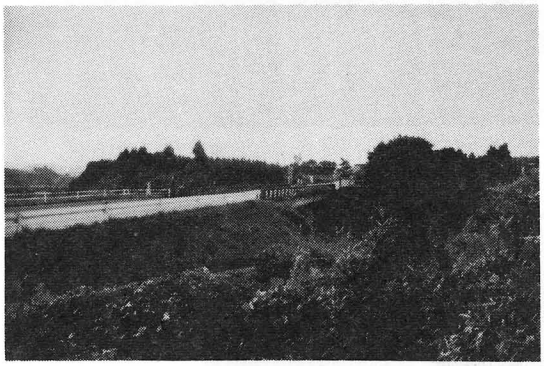


㉗秋月氏の墓
　石質が軟いため風化がすすんでいる。

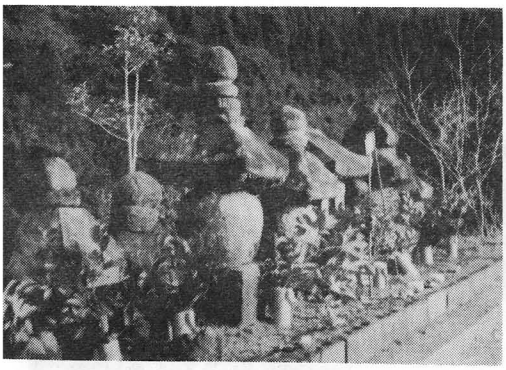


㉙櫛間神社
境内の楠・杉・神楽面は市指定の文化財になっている。

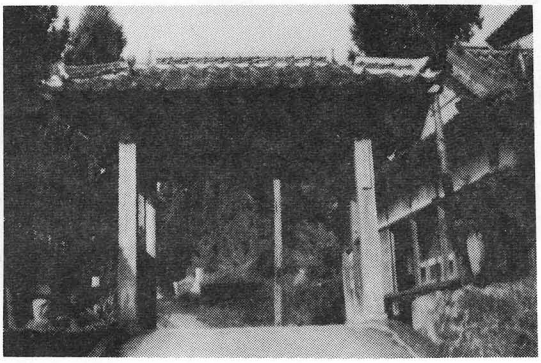
㉚足利義昭の墓
田圃の中にひっそりと墓がある。



㉛倉三橋
当時は木橋であったが、現在は外行橋が架かっている。

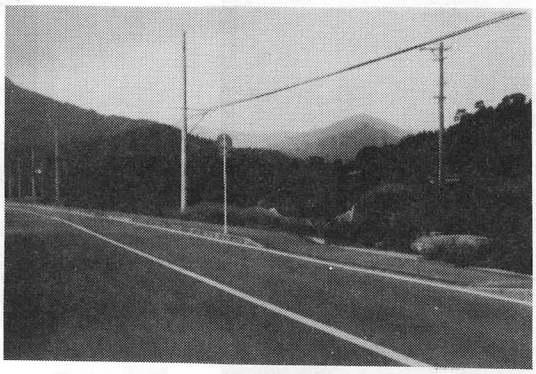


㉜野辺氏の墓
街道右手の小高い塚に野辺氏の墓がある。

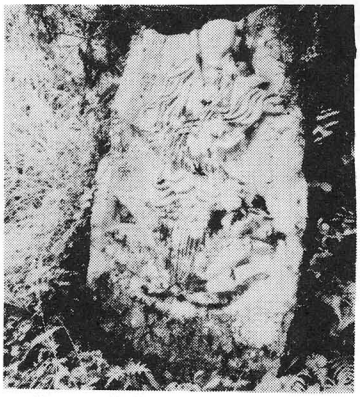


㉝虎溪庵
串間地頭野辺盛房が応安3年に建立した。

㉟お大師様
奈留峠を下りてくると道脇に鎮座している。

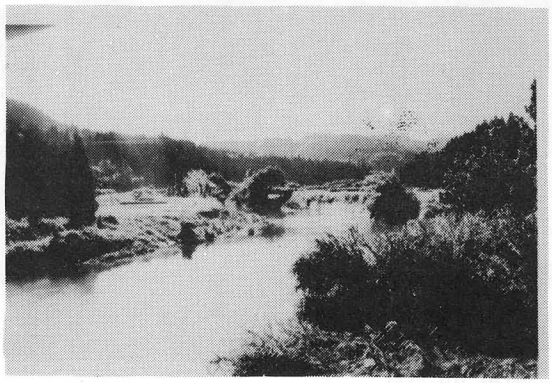


㊱石ノ元の番所跡
福島の秋月藩に対しておかれたものであるが、現在は畑地となっている。



㊵地蔵菩薩
道標の役目も果たしていた地蔵菩薩。

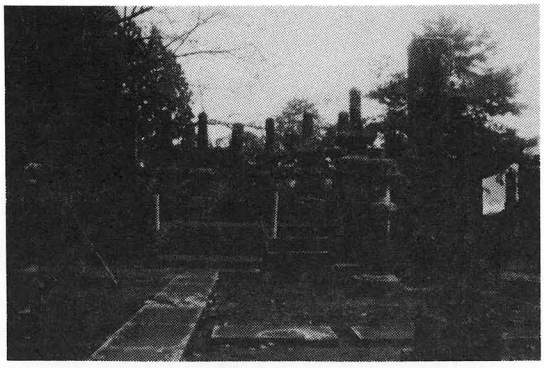
㊲石ノ元のいのこ
地蔵だけは現地に移されたが湧水は今も流れる。



㊶下塚田橋
旧称窪田橋と呼ばれていたが、現在はない。

㊷ 塚田神社
高くて急な石段を登ると、境内に杉の大木が繁る。

㊻ 山口の供養塚
墓石状のこわれた石が多数埋っており、土地の人は供養塚という。



㊾ 伊東氏累世の墓
墓域を石垣でめぐらした藩主の墓所。

○ 監　　修　　石 川 恒太郎　　県文化財保護審議会委員

○ 調 査 員

街道名	氏名	役職
米良街道	青山幹雄	県文化財保護指導委員
	安藤徳英	妻北小学校教諭
飫肥街道	久枝敏	県文化財保護指導委員
	川崎満也	北郷小学校教諭
鵜戸街道	細田隆介	県文化財保護指導委員
	堀内和雄	油津小学校教諭
志布志街道	前田博仁	大平小学校教諭
	井手義徳	有明小学校教諭

「歴史の道」調査報告書
昭和54年3月31日
編集　宮崎県教育委員会
発行　文化課
宮崎市橘通東1丁目9番10号
印刷所　酒匂印刷

志布志

昭和五十四年三月

宮崎県歴史の道

志布志街道	
① 高松の津口番跡	⑯ 道路元標
② めぐり瀬の船着場	⑰ 西神社
③ 高松の番所跡	⑱ 如意寺
④ 長浜の辨財天	⑲ 万多城の塚
⑤ 七ツ橋	⑳ 剣城の塚
⑥ 常照寺	㉑ 毘沙門塚
⑦ 泊柱神社	㉒ 勿体森
⑧ 今町の津口番跡	㉓ 霧島塚
⑨ 金谷の渡し	㉔ 昌福寺
⑩ 金谷の津口番跡	㉕ 櫛間城跡
⑪ 金谷の遠見番所	㉖ 西林院
⑫ 金谷城跡	㉗ 秋月氏の墓
⑬ 正国寺	㉘ 上町橋
⑭ 熊野権現	㉙ 櫛間神社
⑮ 福島郡代所跡	㉚ 足利義昭の墓

凡例

- 国道
- 県道
- その他の道
- 不明部分
- 領界

記号

- 幅員11.0m以上の道路
- 幅員5.5m～11.0mの道路
- 幅員2.5m～5.5mの道路
- 幅員1.5m～2.5mの道路
- 幅員1.5m未満の道路
- 国道および路線番号
- 自動車通行困難の部
- 建設中の道路
- 有料道路および料金徴収所
- 国有鉄道
- 民営鉄道
- 地下鉄および地下式鉄道
- 森林鉄道等
- 路面の鉄道
- 索道
- 国有鉄道 / 民営鉄道 建設中または運行休止中
- 橋および高架部
- 切取部
- 盛土部
- 送電線
- へい
- 石段
- 都・府・県界
- 北海道の支庁界
- 都・市界、東京都の区界
- 町・村界、指定都市の区界
- 土地の利用景の界

- 市役所 東京都の区役所
- 町・村役場 指定都市の区役所
- 官公署(特定の記号のないもの)
- 裁判所
- 税務署
- 営林署
- 測候所
- 警察署
- 駐在所・派出所
- 消防署
- 保健所
- 郵便局
- 電報・電話局
- 自衛隊
- 工場
- 発電所・変電所
- 小・中学校
- 高等学校
- 大学・高専
- 病院
- 神社
- 寺院
- 高塔
- 記念碑
- 煙突
- 電波塔
- 油井・ガス井
- 灯台
- 坑口・洞口
- 城跡
- 史跡・名勝・天然記念物
- 噴火口・噴気口
- 温泉・鉱泉
- 採鉱地
- 採石地
- 重要港
- 地方港
- 漁港

田		広葉樹林	
畑・牧草地		針葉樹林	
果樹園		はいまつ地	
桑畑		竹林	
茶畑		しの地	
その他の樹木畑		しゅろ科樹林	
		荒地	

△52.6 三角点　・124.7 標石のあるもの　標高点
⊙21.7 水準点　・125 標石のないもの

文化課

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の5万分の1地形図を、複製したものである。（承認番号）昭54 九複第116 号」

1：50,000

0　1000　2000　3000　4000　5000m

作製 宮崎市橘通西5丁目6-39 ☎(0985)27-4068 (株)富士マイクロサービスセンター

都井岬

昭和五十四年三月

宮崎県歴史の道

凡例

- 国道
- 県道
- その他の道
- 不明部分
- 領界

記号

- 建設中の道路
- 有料道路および料金徴収所
- 国有鉄道
- 民営鉄道
- 地下鉄および地下式鉄道
- 森林鉄道等
- 路面の鉄道
- 索道
- 建設中または運行休止中
- 橋および高架部
- 切取部
- 盛土部
- 送電線
- トンネル
- 石段
- 都・府・県界
- 北海道の支庁界
- 都・市界、東京都の区界
- 町・村界、指定都市の区界
- 土地の利用景の界
- △52.6 三角点
- ▽21.7 水準点
- ·124.7 標石のあるもの
- ·125. 標石のないもの
- 標高点
- 市役所（東京都の区役所）
- 町・村役場（指定都市の区役所）
- 官公署（特定の記号のないもの）
- 裁判所
- 税務署
- 営林署
- 測候所
- 警察署
- 駐在所・派出所
- 消防署
- 保健所
- 郵便局
- 電報・電話局
- 自衛隊
- 工場
- 発電所・変電所
- 小・中学校
- 高等学校
- 大学・高専
- 病院
- 神社
- 寺院
- 高塔
- 記念碑
- 煙突
- 電波塔
- 油井・ガス井
- 灯台
- 坑口・洞口
- 城跡
- 史跡・名勝・天然記念物
- 噴火口・噴気口
- 温泉・鉱泉
- 採鉱地
- 採石地
- 重要港
- 地方港
- 漁港

田		広葉樹林	
牧草地		針葉樹林	
果樹園		はいまつ地	
桑畑		竹林	
茶畑		しの地	
その他の樹木畑		しゅろ科樹林	
		荒地	

1：50,000

1000m 500 0 1000 2000 3000 4000

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の５万分の１地形図を、複製したものである。（承認番号）昭54 九複第１１６号」

作製 宮崎市橘通西５丁目６−39 ☎(0985)27−4068 (株)富士マイクロサービスセンター

文化課

飫肥

昭和五十四年三月

宮崎県歴史の道

凡例

- 国道
- 県道
- その他の道
- 不明部分
- 領界

鵜戸街道

㉑ 宮浦神社	㊷ 石堰堤
㉒ 鳥帽子峠砦跡	㊸ 梅ケ浜
㉓ 鳥帽子峠の地蔵尊	㊹ 乙姫橋
㉔ 鵜戸参道　八丁坂	㊺ 歓楽寺跡石塔群
㉕ 馬道	㊻ 安楽下総介の墓
㉖ 鵜戸神宮と霊窟	㊼ 湖雲ケ城跡
㉗ 鵜戸崎	㊽ 榎原神社
㉘ 坊薗尼堂	
㉙ 鳥居峠	
㉚ 水の尾砦	
㉛ 硯岩	
㉜ 石垣道	
㉝ 神田石橋	
㉞ 神田講	
㉟ 鬼ケ城跡	
㊱ シャンシャン馬の鈴	
㊲ 東渡し	
㊳ 東郷古墳	
㊴ 平山の駒つなぎ松跡	
㊵ 駒宮(平山神社)	
㊶ 梅ケ浜渡し	

飫肥街道	志布志街道
① 飫肥城跡	㉛ 倉三橋
② 飫肥城歴史資料館	㉜ 野辺氏の墓
③ 飫肥城大手門石橋	㉝ 虎溪庵
④ 伊東邸(予章館)	㉞ 奈留の番所跡
⑤ 侍屋敷	㉟ お大師様
⑥ 振徳堂	㊱ 石ノ元の番所跡
⑦ 板敷神社	㊲ 石ノ元のいのこ
⑧ 権律師弘全の供養碑	㊳ 石ノ元の山の神
⑨ 八幡馬場の石道跡	㊴ 酢苔川板橋
⑩ 小村寿太郎誕生碑	㊵ 地蔵菩薩
⑪ 飫肥の商人町	㊶ 下塚田橋
⑫ 赤面法印の墓	㊷ 塚田神社
⑬ 安国寺跡	㊸ 山王様
⑭ 嶺南大和尚の墓	㊹ 石仏
⑮ 中ノ尾供養碑	㊺ 山口の観音堂
⑯ 水無観音	㊻ 山口の供養塚
⑰ 内之田の処刑場跡	㊼ 上城跡
⑱ 大王講	㊽ 五百稗神社
⑲ 内之田の一里塚	㊾ 伊東氏累世の墓
⑳ 大藤の板碑	㊿ 小村寿太郎の墓
	51 本町橋

記号

- トンネル
- 幅員11.0m以上の道路
- 幅員5.5m～11.0mの道路
- 幅員2.5m～5.5mの道路
- 幅員1.5m～2.5mの道路
- 幅員1.5m未満の道路
- 国道および路線番号
- 自動車通行困難の部
- 建設中の道路
- 有料道路および料金徴収所
- 単線　駅　複線以上
- 国有鉄道
- 側線　地下駅
- 民営鉄道
- トンネル
- 地下鉄および地下式鉄道
- 森林鉄道等
- 路面の鉄道
- 索道
- 国有鉄道
- 民営鉄道
- 建設中または運行休止中
- 橋および高架部
- 切取部
- 盛土部
- 送電線
- へい
- 石段
- 都・府・県界
- 北海道の支庁界
- 都・市界、東京都の区界
- 町・村界、指定都市の区界
- 土地の利用景の界

△52.6 三角点　·124.7 標石のあるもの
□21.7 水準点　·125 標石のないもの
標高点

- 市役所 東京都の区役所
- 町・村役場 指定都市の区役所
- 官公署(特定の記号のないもの)
- 裁判所
- 税務署
- 営林署
- 測候所
- 警察署
- 駐在所・派出所
- 消防署
- 保健所
- 郵便局
- 電報・電話局
- 自衛隊
- 工場
- 発電所・変電所
- 小・中学校
- 高等学校
- (大)(専)大学・高専
- 病院
- 神社
- 寺院
- 高塔
- 記念碑
- 煙突
- 電波塔
- 油井・ガス井
- 灯台
- 坑口・洞口
- 城跡
- 史跡・名勝・天然記念物
- 噴火口・噴気口
- 温泉・鉱泉
- 採鉱地
- 採石地
- 重要港
- 地方港
- 漁港

田		広葉樹林	
畑・牧草地		針葉樹林	
果樹園		はいまつ地	
桑畑		竹林	
茶畑		しの地	
その他の樹木畑		しゅろ科樹林	
		荒地	

1：50,000

1000m　500　0　1000　2000　3000　4000

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の5万分の1地形図を、複製したものである。（承認番号）昭54 九複第116 号」

作製　宮崎市橘通西5丁目6-39 ☎(0985)27-4068 (株)富士マイクロサービスセンター

文化課